

在宅看護学概論	2年・前期	1単位	准教授 川村 牧子他
科目カテゴリー	看護提供のあり方	科目ナンバリング	33310852

1. 授業のねらい・概要

本科目は、在宅看護を取り巻く社会的背景や基盤となる概念および在宅看護の特徴を学ぶ。また在宅療養者や家族の特徴を理解すると共に生活を中心においた看護について学ぶ。さらに地域包括ケアシステムにおける多職種連携、社会資源の活用、その中で看護が果たす役割について学ぶ。

2. 学修の到達目標

1. 在宅看護の社会的背景、基盤となる概念、在宅看護の特徴について理解する。
2. 在宅療養者や家族の特徴について理解する。
3. 生活を中心においた看護について理解する。
4. 介護保険や医療保険における訪問看護制度の概要について理解する。
5. 療養の場への移行に伴う多職種連携で行う退院支援について理解する。
6. 療養生活を支える社会資源とその活用について理解する。
7. 地域包括ケアシステムにおける看護の役割について理解する。

3. 授業の進め方

講義を中心に行う。在宅看護のイメージを具体化し、理解しやすいようにするため事例の展開を通して授業を進める。

4. 授業計画（講義）

1. 在宅看護の社会的背景、基盤となる概念、在宅看護の特徴（川村 牧子）
1. 在宅療養者や家族の特徴と支援（川村）
2. 生活を中心においた看護（川村）
3. 介護保険や医療保険における訪問看護制度の概要（島田 昇）
4. 療養の場への移行に伴う多職種連携で行う退院支援（川村）
5. 療養生活を支える社会資源とその活用（島田）
6. 地域包括ケアシステムにおける看護の役割（川村）
8. 在宅看護の対象と在宅における看護活動のまとめ（川村）

5. 成績評価の方法・基準

定期試験（受験資格は3分の2以上の出席した者）70％、課題レポート 30％で総合的に評価する。

6. テキスト・参考文献

テキスト：1) 正野逸子・本田彰子（2015）：看護実践のための根拠がわかる在宅看護技術，メヂカルフレンド社
 2) 臺有桂・石田千絵・山下瑠理子（2022）：ナースング・グラフィカ 在宅看護論①地域療養を支えるケア，メディカ出版
 その他参考文献は、授業中に適宜紹介する。

7. 準備学習に必要な時間、又はそれに準じる程度の具体的な学習内容

授業内容について1時間以上の予習および復習を行うこと。

8. 受講上の留意事項

遠隔授業：リアルタイム型の場合は、時間割の時刻に授業を受けられる体勢をとること。
 オンデマンド型の場合は、1回分の内容を最後まで見ること。
 対面授業：遅刻、欠席ならびに授業中の私語、授業に関係ない言動は慎むこと。

9. 課題に対するフィードバックの方法

試験実施の際に解答等を説明する。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

必修科目であり、修得できない場合進級不可となる。在宅看護学実習の先修科目である。

11. 該当する本授業は、以下の実務経験を活かして実施される

医療機関における看護師としての実務経験、行政機関及び医療機関・地域包括ケア関連施設における保健師としての実務経験を活かして、講義を行う。